

CS+用 RL78コード生成(CS+ for CA,CX) ご使用上のお願い

CS+用 RL78コード生成 (CS+ for CA, CX Code_Generator for RL78) の注意事項を 連絡します。

1. コンパレータ設定時の生成コードの注意事項
対象: RL78/I1Aグループ
2. DTC設定時の注意事項
対象: RL78/F13, F14グループ
3. 電圧検出回路で「割り込みモード」設定時の注意事項
対象: RL78/L12, RL78/I1A, RL78/G1A, RL78/F13, RL78/F14グループ
4. A/Dコンバータの設定を行ってプロジェクト保存するときの注意事項
対象:RL78/L1Cグループ
5. コード生成で端子配置へ反映させた時の注意事項
対象:RL78/G12, G13 および G14グループ

1. コンパレータ設定時の生成コードの注意事項

1.1 該当製品

CS+用 RL78コード生成 (CS+ for CA,CX Code_Generator for RL78) V2.05.00

1.2 該当マイコン

RL78ファミリ: RL78/I1A グループ 30ピンパッケージのマイコン

1.3 内容

コンパレータを設定した際に、クロック供給の生成コードが出力されません。

1.4 回避策

コード生成後、`r_cg_comp.c`のコンパレータ初期化関数 `R_COMP_Create()` の冒頭に下記のクロック供給の生成コードを追記してください。

PGACMPEN = 1U; /* supply comparator clock */

なお、コード生成後は常に上記の追記正が必要です。

1.5 恒久対策

次期バージョンで改修する予定です。

2. DTC設定時の注意事項

2.1 該当製品

CS+用 RL78コード生成 (CS+ for CA,CX Code_Generator for RL78) V2.05.00

2.2 該当マイコン

RL78ファミリ: RL78/F13, F14グループ

2.3 内容

- (1) DTCの高速転送を設定した場合、コード生成後のプロジェクトが保存できません。
- (2) DTCの起動要因番号が正しくDTCベクタアドレスへ設定されません。

2.4 回避策

(1) 2.3(1)の回避策

コード生成後、プロジェクト保存前にDTCの高速転送の設定を解除してください。

(2) 2.3(2)の回避策

コード生成後、以下のマニュアルを参照の上、r_cg_dtc.cにあるDTC初期化関数 void R_DTC_Create() のDTCベクタアドレス設定コード(注)に正しい値を設定してください。

なお、コード生成後は常に上記の修正が必要です。

注: dtc_vectortable[x] の x : 起動要因番号

RL78/F13, F14 ユーザーズマニュアル ハードウェア編

「表19-5 DTC起動要因とDTCベクタ・アドレス」

<https://www.renesas.com/search/keyword-search.html#genre=document&documenttype=10&productlayer=115646>

修正例: DTC設定で起動要因をUART0受信に設定した場合

誤った起動要因番号 "9" (A/D変換終了) が設定されますので、正しい起動要因番号 "10" (UART0受信の転送完了/CSI01の転送完了またはバッファ空き/IIC01の転送完了) を設定してください。

修正前: dtc_vectortable[9] = xx;

修正後: dtc_vectortable[10] = xx; xx: コード生成の出力値

2.5 恒久対策

次期バージョンで改修する予定です。

3. 電圧検出回路で「割り込みモード」設定時の注意事項

3.1 該当製品

CS+用 RL78コード生成 (CS+ for CA, CX Code_Generator for RL78) V2.05.00

3.2 該当マイコン

RL78ファミリ: RL78/L12, RL78/I1A, RL78/G1A, RL78/F13, RL78/F14グループ

3.3 内容

電圧検出回路の動作モードを「割り込みモード」に設定しても「リセットモード」で動作します。

3.4 回避策

コード生成後、以下の値のビット1を "0" に修正してください。

修正する値: CA78K0R (ビルド・ツール) の「リンク・オプション」タブにある「ユーザ・オプション・バイト値」の000C1H/010C1H

なお、コード生成後は常に上記の修正が必要です。

修正例: RL78/F13 電圧検出回路で割り込み発生電圧を2.75V、
割り込みモードで設定した場合

「ユーザ・オプション・バイト値」の 000C1H/010C1H の値を7Fから7Dに修正してください。

修正前: xx7Fyy

修正後: xx7Dyy

xx: 000C0H/010C0Hの設定値, yy: 000C2H/010C2Hの設定値

3.5 恒久対策

次期バージョンで改修する予定です。

4. A/Dコンバータの設定を行ってプロジェクト保存するときの注意事項

4.1 該当製品

CS+用 RL78コード生成 (CS+ for CA,CX Code_Generator for RL78) V2.05.00

4.2 該当マイコン

RL78ファミリ: RL78/L1Cグループ

4.3 内容

A/Dコンバータで下記の設定を行ったプロジェクトを読み込んだ場合、「致命的なエラーが発生しました。」という内容のダイアログが表示され、CS+が終了します。

- ANI0-ANI2, ANI5, ANI6アナログ入力端子設定: ANI0-ANI1
- VREF(+)設定: AVREFP
- VREF(-)設定: AVREFM

4.4 回避策

コード生成後、「ANI0-ANI2, ANI5, ANI6アナログ入力端子設定」の設定を "ANI0-ANI2" に変更してプロジェクト保存を実行してください。

4.5 恒久対策

次期バージョンで改修する予定です。

5. コード生成で端子配置へ反映させた時の注意事項

5.1 該当製品

CS+用 RL78コード生成 (CS+ for CA, CX Code_Generator for RL78) V2.05.00

5.2 該当マイコン

RL78ファミリ: RL78/G12, G13, およびG14 グループ

5.3 内容

ポートの入出力モードを設定後、「端子配置へ反映」を実行した場合、設定した入出力モードに関わらず、常に "I/O" が表示されます。

5.4 回避策

ありません。

ただし、生成したCソースコードには影響ありませんので、Cソースはそのままご利用ください。

5.5 恒久対策

次期バージョンで改修する予定です。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。